

ひまわりからの メッセージ

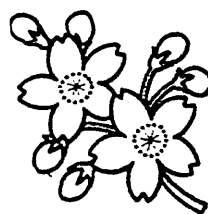
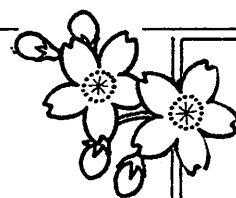
72号

2017.4.17

NPO ひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

春爛漫



新年度がスタートしました。

今年、桜の開花が少し遅かったので、入学式が桜の花の下で迎えられたのではないだろうか。

私は……と言うと、西濃圏域発達障がい支援センターの昨年度の実績と決算報告を県に提出し、NPOひまわりの花の総会を控えて、今まとめているところです。事務に不慣れな私ですが、有難いことに税務に関することは高校時代の同級生が経営する会計事務所の方がお手伝いして下さることになり、本当に友だちの有難さを身にしみています。他にも色々な方から有形無形の支援をいただいて、何らかの形でお返ししていた方がいいなあと、気持ちも新たにしています。

「忙しいということは、心をなくすことなんだって……。」と、当時中学生だった下の娘に言われたことは、ふと心をよぎる昨今

ですが、新年度早々、私にまた新たな仕事が無理込んできました。県文芸祭の選考委員、福祉施設の評議員、短大の客員教授……ウーンと思わず唸ってしまいました。そこは性格上断れない私のこと、結局引き受けてしまいました。友人たちは、「死ぬまで働きなさいよ!!」と、激励なのか、呆れているのか分かりませんが、半分真面目な顔で言ってくれます。浅田真央さんのように、「もう、いいのかな……。」と思えないので、独断と偏見に満ちた、この「ひまわりからのメッセージ」も、当分は書きつづけることになると思います。読んでいただいた方に疑問やお叱りの声がいただけると私は嬉しいのですが……。

吾が庭は、草がはびこり、もぐらが我がもの顔でトンネルを掘りつづけていて、あちこちに土の山ができています。家の中では、私と同年令になった犬のボボがストーブの前に陣取って熟睡しています。でも、こういう日常の「一瞬一瞬」が何ものにも代えがたい、喜びなのだろうと思うのです。何でもない平凡な日常が断られた時、人はその大切さを悟るものなのかもしれないなあと、ふと思いました。

春爛漫、今年度はどんな一年になるのでしょうか。悔いのないように、一日一日を大切に過ごしたいものです。



それぞれの春

くセンター こぼれ話

✿進学校へ進んだAさん

Aさんは、昔かう百点を取らないと許せないようなところがあって、勉強が好きな子でした。中学生になり、高校受験を迎えました。塾にも通い、準備は完璧と思えました。ところが受験が終わって、結果をたずねたお母さんに「紙がザラザラで落ち着かなかった」と言ったそうです。エッ？、そこ？、まさか？、それは私たちの予想をはるかに越えたことだったので、幸い結果は合格でしたが、紙質で困るなどは想像もしていなかった私たちでした。そしてAさんは、後輩のためにも、答案用紙の紙の質や、問題の書き方など、事前の経験が必要であることを教えてくれました。

✿新しい道を求めた子どもたち

私立高校へ進学したけれども学校を替えることにしたBさん、特別支援学校高等部をやめて、私立高校に進むことにしたCさん、単位が取れないために苦しんで別の道を模索しているDさん、皆、考えた上での結論です。人生には、様々な



分かれ道があります。自分に合わないと思ったら、又、自分の子には向いてないと思ったら、別の道を選択していくこともできるはずですね。人生、長いのですから……。

この様に新しい道を歩き始めた子もいる反面、新年度になって困っている子や、現状を変えられずに悩んでいる子も多くいるようです。

○不登校になつてゐるEさん、Fさん（中学生）

Eさんは、友だちを作るのが苦手です。今まで仲の良い、た一人の友だちとクラスが離れてしまいました。新しい友だちを作る勇気がありません。今までも行きしぶりはあったのですが、何とか乗り越えてこられたのは、その友だちのお蔭だったのですが……。

Fさんは、ゲームが大好きです。好きなことには集中できるので、お母さんは見守ってきたそうです。でも今は、昼夜逆転してしまっています。子どもの個性や良さを失くさせないためにも、子どもの意思を通させたいと思っています。とおっしゃるのですが……。

Eさんが不登校になるかもしれないという予測は、おそろく学校の先生方もわかっていらしゃったでしょう。でもあえて、おそろくは将来を見越して対応されたのでしょう。学校での居場所と

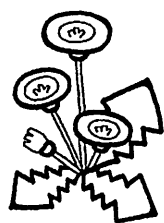
信頼できる大人。先生の存在が鍵になるのだろうかと思ひます。

下さんの方は、もしかしたら将来工丁の世界での成功を夢見ておられるのかもしれませんが、まずは家庭生活の見直しが必要だと私は思ひます。自閉症の人たちの成功話は、何の努力もなしに成し遂げられたことではありませんから……。皆さんはどう思ひわれますか？

◎ 他人から「多動じゃないの？」と言われたGさん

Gさんは開口一番「ひどいと思ひうんです。うちの子のこと、多動って言うんです。」と言われました。登下校のトラブルが原因のようですが、お母さんには納得がいきません。「うちの子は友達も大好きだし、今までだって園で何も言われてません。活発で元気な子で色々なことに興味をもっているんです。それって、そんなにいけないことなんですか？」

私はお子さんを見ていないので、適切な助言はできませんでしたが、園生活と学校の違いや、自分の気持ちをもコントロールする力は家庭でも考えていけるよう、アドバイスもしました。それにしても、幼児期に、自由あそびもあり、生活のルールもあって過激してきたはずなのに、園でどうだったのだろうか、不思議に思ひました。Gさんは他県から移り住んだ方ということでしたが、幼児期の気付きは、本当に大切なことだと改めて思ひました。



◎ 連合いが発達障がいでは？

この相談は、実は意外に多くあります。「家族のことに目を向けようとしなさい」「私が体調が悪くても心づかいがない」「会社から帰ってすぐ自分の部屋にこもってしまう」「等等。」「では、何か生活の中でこだわっていることがありますか？」「頼んだことも、すぐ忘れてしまいますか？」など、具体的にたずねると、意外にそうではないことが多いものです。

人は、皆それぞれ感じ方も考え方も違っていて、それは夫婦であっても同じです。生活の中でのこだわりも違っていることもあるでしょう。

発達障がいということばが一人歩きをしているように感じることもあります。社会の中でお互いに理解をしながら生きて行くことは、障がいの有無にかかわらず大事なことで、はないでしょうか。誰も完璧な人間はいないので、結局は相手をとどの位許容していくことができるのかという、自分自身の問題なのかもしれませんね。

ご夫婦の間が気まぐしくなると、子どもたちは不安定になります。子どもたちは大人以上に感じ取る力をもっていますから……。子どもたちの心の叫びを感じ取ることもできる大人でいたいものですが、人の感情というものは、扱いにくいものです。

Yさんからの情報です

①

親の会のYさんが私立中学校の情報提供をして下さったので、一部お知らせしておきます。

その中学校では、教科毎にシラバスが作られていて、一年間に何を学ぶのかが分かるようになっていきます。そして、**学習の進め方**というプリントには、用意するもの、問題集について、学習の仕方、課題について等細かに記述してあり、生徒が予測しやすくしてあります。特に評価のポイントには次のように記述。

- (1) 中間テスト、期末テストの点数
- (2) 単元テストの点数 (不合格者は勉強会 追試)
- (3) 小テストの点数 (不合格者は減点)
- (4) 課題の取り組み方 (期限遅れ、再提出は減点)
- (5) 授業態度 (他事 私語 居眠り やる気のなさなどは減点)

(挙手、発言は加点)

おそらく、これらのことは、各教科の担任の先生が口頭で伝えられたり、生徒に明確に伝えられなかったりすることが多いのではないのでしょうか。この学校では文書として生徒に示すことで生徒が自分でどうすれば良いのかも考え、予測をたてていくことができるように工夫されています。

また、ノートの取り方や、間違ったテストの直し方も、実際にいねいに分かりやすく説明(図示)されています。中学生になっても、そんなことをする必要はあるのかという声が聞かえてきそうですが、助かる生徒は多いのではないかと思います。

小学校の授業でも、ことばだけで説明されても分からず、困っている子どもたちが多い昨今です。その上、何を、どうしたらいいのか、優先順位がつけられない子どもたちも大勢います。勉強の見通しや習慣づけ、間違えた時の対応など、具体的に教えてもらうことで、子どもたちのやる気もちがってくるのではないかと思います。

私立は公立とちがって公募した生徒が集まらないと経営が成り立っていきませんから、きっと、より細かな配慮を心がけておられるのでしょう。そして、大切なことは、何よりも生徒自身が見通しをもつ、自ら計画し、自ら学んでいこうとする力を引き出してあげることなのでしょう。

情報②

朝日新聞 3/5 GLOBEに

自閉症の特集記事があります。読んでみてください!!

世の中には、様々な取り組みがあります。参考にできることがたくさんあると良いですね。

